

Safe Volu

(Former First Aid)

静岡県赤十字安全奉仕団機関紙

平成22年10月1日発行

台風9号大雨被害等における小山町災害救護活動について 報告

平成22年9月9日に上陸した台風9号により、静岡県駿東郡小山町では1時間に120ミリを超える豪雨を記録。川が氾濫し、橋桁が流されたほか、床上浸水、家屋倒壊などの被害が発生しました。

こうした被害の復旧に向け、安全奉仕団員も現地入りし、復旧への支援の他、ボランティアに対する衛生管理活動を展開しました。

小山町の豪雨災害ボランティアに参加して

9月9日の台風9号は静岡県小山町に大きな被害をもたらした。私は、日赤静岡県支部、橋本さんより、災害ボランティアに来ている方々の衛生指導など、諸々の後方支援をお願いしたいとの依頼を受け、14日を15日の2日間活動を行うこととした。

当日は、自宅を朝6時半過ぎに出発し、小山町ボランティア受付本部に向った。受付所は健康福祉会館内にあり、看護奉仕団の救護所もその中であつた。看護奉仕団の佐野様と高橋様もみえられ、緊張の中、活動が始まった。

心配された衛生管理の面では、小山町の職員の方々も十分注意しており、手の消毒を始め作業用手袋もの管理も徹底されていた為、衛生管理は看護奉仕団に任せ、私は現場に出ることにした。

受付名簿日赤奉仕団渡邊と明記し、作業現場の指示を待っていると、防災ボランティアのリーダーの千代さん、玉木さんの働く姿が目にとまり、そのてきぱきと指示を出している仕事ぶりから、災害現場での経験の差を感じました。

私は本部より歩いて10分程度の所にある住宅での作業を依頼され、スコップや一輪車を借用し現場へと歩いて向うこととした。現場に着くと地元の佐官業の方が5名ほど仲間で土砂出しをされており、私もそこに加わることとなった。

このお宅は川沿にあり、重機が入れなかった為、すべて手作業で行い、作業を終え本部に戻るころには17時を過ぎていました。

次の日も救護所には日赤看護奉仕団の吉田さん野沢さんの2名の方がおられたので現場に出ることにし、湯船地区の農作業小屋の土砂出しに行く事になった。

現場近くでは、後一週間で稲刈りができる広い田んぼは半分以上土砂で埋まった姿が目に入り、被害の大きさを物語っていた。

現場の農機具小屋は土砂が1mの深さで堆積しており、小屋の中のベルトコンベアー土砂を乗せ外の軽トラで排出するものの、幅5m奥行き6m位もある広い農機具小屋の土砂は簡単には片付かなかった。

時々休憩は入れるが、土砂は重く重労働だった。しかし、作業をしている中に若い女性が5~6人居たのには驚かされた。普段オフィスで働いていると見られる方々が黙々と額に汗を滲ませ、一生懸命に作業に取り組む姿にボランティア精神の何たるかを教わった気がした。

(報告者 渡邊眞一)